

原発いらぬ栃木の会 news

vol.2 2012.1.11

原発いらぬ栃木の会は県内各自治体に脱原発とエネルギー政策の転換についての陳情活動を開始
12月議会には那須塩原市と益子町に対して陳情書を提出しました。



脱原発&エネルギー政策の転換を！

那須塩原市議会への陳情提出

報告 品川尚子

11月16日、那須塩原市議会に「原発から再生可能エネルギーの推進へエネルギー政策の転換を求める陳情」を提出しました。

陳情は、産業環境委員会に付託され、12月12日に審議との情報を得て、委員会の傍聴に出向きました。

各議員とも、各陳情内容(1再生可能エネルギー及び節電その他の省エネルギーの推進をエネルギー政策の中核に据えること、2原子力発電の比率を縮小し、完全廃止を最終目標とすること、3エネルギー政策については国民の積極的な参画を求めること)についてはおおむね共感を示すとした上で、以下の発言が続きました。

中村義隆議員(みんなのクラブ): 会派で意見交換した結果、おおむね理解はするが、国の政策としての代替エネルギー政策ということで示されないと、難しい。国は、アメリカやベトナムとの原子力協定を重視し、依存国に対する供給国であることを止めるとは言っていない。国の政策が出ない以上、動向を見極める必要がある。

相馬義一議員(敬清会;保守系): 「1については、時期尚早である。太陽光、バイオマス、小水力発電など再生エネルギーについて視察を重ねてきたが、現段階でこれといった解決策が見あたらない。

2については、内容としては納得でき、採択という案もありうるが、現段階では難しい。」

菊地宏明議員(清流会;保守系): 「趣旨はよく分かる。太陽光、バイオマス、小水力などの再生エネルギーについて学習のため研修にも行った。しかし、原発一基で100万戸の需要を満たすのに代替する策があるか

といえば、それはない。たとえば那須地方では、風力発電の見込みはなく、太陽光発電にしても広大な面積を要する。青森県内の3つの町では、むしろ原子力発電を推進していきたいという決議をあげたという話もある。」「原発事故により、栃木県の那須地域は、農商工業とも被害を被った。被害と言うにとどまらず、那須塩原市事態が完全に汚染地域となっており、それを踏まえれば1,2,3はもっともなこと。しかし、現段階では、当市と益子町にだけ陳情が提出されている状況である。おそらく3月議会で提出となるものと思われるが、国の動向もはっきりしていない現段階において、他市の動向も見極めたい。」

会派ごとの論調の違いは見られず、結局、エネルギー政策は国の政策であるから県市町レベルで対応するのは困難との認識の下、全員一致で継続審議となりました。

各議員の意見は、国の政策に何であれ賛成するというものではないというなら、地方自治体の存在意義はありません。各自自治体で、原子力発電賛成反対それぞれの政策を掲げることは可能であり、現に青森県の3市は菊地議員の言うとおりの賛成意見を表明、福島県や浜岡原発のある静岡県周辺の自治体は反対意見を表明しています。

何より気になるのは、まず、使用済核燃料や放射性廃棄物の処理の問題が解決されていないのに原子力発電を続けることが是か非かという、この根源的な問題を誰も取り上げない点です。そして、これは、原発推進派の特徴です。

そうそう、陳情3の問題には誰からのリップサービスすらありませんでしたが、これはどう解釈すれば……、そう、エネルギー政策への市民参加、です。



2011年11月18日 原発いらない栃木の会が作成した陳情書を益子町内の「ひまわりの会」「かたばみ通信」の会「益子自然育児の会おむすびの里」「青空市の会」「これからの益子を考える連絡会」の賛同を得てそれぞれの代表者ととも益子町議



会議長宛に提出してきました。

陳情書は議事運営委員会にかけられました。まず意見書の文案が提示されていないと保守系議員からの指摘があり、樋山議員（日本共産党）、長岡議員（これからの益子を考える連絡会員）らが自分達で作るとか議会事務局で作るとかの案を出しましたが、時間がない・芳賀郡市に前例がないなどの理由で今回は審議見送りということになりました。

つまり議長預かりという処置で、陳情者側で意見書の文案を作り2月末までに再提出すれば3月議会の為の委員会に再度かけるといことです。

樋山議員からの報告によれば、委員会では趣旨には賛成という意見もありましたとのこと。

←（陳情後、新聞社の取材を受ける）

「原発いらない栃木の会」に参加して

代表 米田軍平

東電福島第1原発の事故は、私に予ってない強い衝撃を与えた。

それまでチェルノブイリ原発事故や各地で戦っている裁判闘争等について一応の知識を持っていた。しかし私自身「安全神話」に侵され他人ごとのようにしか思っていなかった。福島第1原発の事故は、そんな安穩な私の頭を強い力で張り飛ばすほどの衝撃を与えた。

日々の新聞やテレビの報道は、衝撃が怒りに変わっていった。特に原発事故後現場で働く労働者の過酷な状況は涙なくして見られなかった。私はこれまで幾つかの団体に参与していた。その団体に言葉で或いは文書で怒りをぶつけた。

そんな中で、大木一俊弁護士から「原発いらない栃木の会」の準備会参加を呼び掛けられた。実は、私は2005年に仲間7人ほどで、近代における日韓の歴史の勉強を始め2008年に一応終え、その後は私個人として「古代朝鮮と那須地方の文化」について勉強を始めていた。大木弁護士から呼び掛けられたのは丁度那須地方を歩いていた時期であった。

77歳の私は、弁護士会でも長老となり、残された時間をマイペースで過ごすことにしていた。大木弁護士の誘いに何の知識も実績もない私がお役に立つかどうか迷い一瞬逡巡した。しかし「原発いらない栃木の会」は多種多様な人たちの集まりで、私でも何かの役に立つのではないかと思入会させて貰った。

福島第1原発に保管されている2724本の使用済核燃料をどうするのか。圧力容器から溶け出した核燃料をどうするのか。高濃度に汚染している建屋や瓦礫、大量の水等をどう処理するのか。これらの処理目処は全く立っていない。地中深く穴を掘って埋めるとしても監視に何万年も必要だし、それまで誰がどんな責任を持っ

て監視するのか決めることなど出来る分けがない。

既に体内被曝したであろう原発周辺の子供たちの健康をどう護るのか。大気中にまき散らされ広範囲に広がっている山林や平地の放射性物質をどう除染するのか分かっていないし手がつけれない。

校庭の汚染された表土をはぎ取ってもそれを持って行く場所がない。

仮に、例えば最も危険度の高い浜岡原発に事故が発生した場合「日本沈没」は必死だと思う。

会が目的とするように、核を燃料とする原発は止めるべきであり、それに代わるクリーンで安全な自然エネルギーへの転換を国策とすべきである。

栃木県は自然に恵まれた地域である。山林はバイオマス燃料を作り出し山林保全と雇傭の場を創出する。県内には数多くの河川があり小規模水力発電が可能である。県内民間住宅15,000戸が既に太陽光発電システムを採用している。太陽光発電は幾らでも広がる土壌が出来ている。

政府のエネルギー政策は曖昧模糊としている。原発容認勢力に身を寄せつつあるように思う。脱原発の国策に変更させるには地域から脱原発と自然エネルギーへの普及を根付かせて行かねばならないであろう。

私は会のみなさんの足枷とならないよう頑張りたいと思っている。



大豆 ひまわり なのはな

植物の除染効果!?

以下「大豆・ひまわり・なのはなプロジェクトじぎょう本部 NPO 法人 民間稲作研究所」より抜粋

農水省の「ヒマワリに除染効果なし」という発表にみなさまもご心配なされたことと思います。当会がヒマワリの除染効果を発表した翌々日のことでした。あえて反論はしませんでした、事実とは下記とおりです。



マスコミが大々的に報じた農水省などの調査は開花したばかりのヒマワリを抜き取って調査したものです。私たちが実施したヒマワリによる除染事業はヒマワリ油を搾油する目的もありますから収穫期まで待たなければその効果は解りません。収穫期に調査した結果は農水省の報告と違って移行率0.123というかなり高いものでした。その後の調査でも大豆・雑草などもセシウム回収効果の高いことが判明しました。なたねはこれからですが、ひまわり、大豆と輪作することで、除染が大幅に進み、同時に安全で栄養的な価値のある植物油が収穫されます。

9月にはひまわり、11月には大豆を収穫し、その後になたねを播種してきました。栃木で10ha、福島で10ha作付けましたから、来年の5月は美しい菜の花畑がみられます。3月には念のために、遺伝子組み換えの野生種が近隣にないかどうかを調査し、交雑を防ぐために抜き取り作業を実施します。みなさまのご協力をお願いします。なたねの収穫は6月下旬です、直ぐにイネを植える田んぼ、ヒマワリを播く畑、大豆を播く田畑とめまぐるしく作業が続き、搾油作業も始まります。

今回ご提供するひまわり油は、福島県原町区と栃木県上三川町で

生産したひまわりです。福島県のヒマワリの種子には289Bq/kgのセシウムが含まれていましたが、ヒマワリ油には全く移行しませんでした。まさに地獄のなかの仏様です。ヒマワリはセシウムを吸収して田畑を浄化しながら、傷ついた人々を励まし、抗酸化力が強く、放射能の被害を軽減するビタミンEを私たちに提供してください。今年はサンフラワーという品種でしたが、来年は春りん蔵とブラックオイルに切り替え、過剰摂取になっても疾病の発生しにくい品種にする予定です。今回のサンフラワーひまわり油はナッツ特有の香ばしい香りがあります。くせのない油で、幅広い料理に使えます。ただし、リノール酸は加熱によって酸化しやすいので、揚げ物などは避け、サラダのドレッシングやディップ、マリネなどに加熱しないで使うのがベターです。また抗酸化力の強いビタミンEを多く含みます。ビタミンA・D・E・Kは脂溶性で、油脂といっしょにとることで吸収がよくなります。緑黄色野菜やキノコなどと合わせて調理すれば、食材の有効成分が生かれます。

今回提供する大豆油は圧搾式搾油ですからトランス脂肪酸は含まれません。しかも農薬・化学肥料を使用しない大豆(タチナガハ)です。安心して天ぷら油等にご利用ください。日本人のタンパク源として重要な大豆はシイタケに次いでカリウムを多く含む作物です。そのため、今年度大豆にはわずかながらセシウムを含む大豆が多くなってしまいました。捨てるのはもったいないので、韓国から大豆油をしぼる「スクリュウ式圧搾機」を輸入し、本邦初の大豆油を搾ってみました。もちろん油にはセシウムは含まれません。市販の大豆油はほぼ輸入大豆で生産されています。農薬・化学肥料を使った遺伝子組み換え大豆が大半で「ノルマルヘキサン」という石油溶剤に溶かして抽出されています。そのため自然界にはないトランス脂肪酸ができてしまい、健康に悪影響を与えています。

放射線計測活動

放射線測定器を共同購入し独自の放射線量計測活動を行っています。

我が家の放射線量はどんなだろう?心配ですね~!

公表される情報が不十分かつ信頼性に乏しい状況だけに、身の回りを自分たちで調べる事が大変重要です。

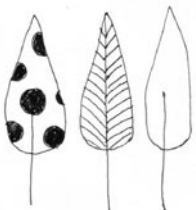
より多くの地点で計測できれば地域的な細かい汚染状況がわかり防御態勢がとりやすくなります。

参加費用は共同購入費(2000円)とメンテナンス料(年1000円)です。

参加者間の情報交換、計測機械受渡しを円滑にするため、月1回ほど集まりをもち、

各地域にホスト役を設置しています。多数の皆さんの参加をお願いします。

放射線計測活動 連絡先 明良佐藤 電話 080-3442-1976 e-mail akiyosisansan@yahoo.co.jp



再生可能エネルギー推進施策及び市民参加を求める要望書

報告 服部 有



私たちは、福島第1原発事故による広範な放射能汚染と深刻な電力不足を経験したことにより、早急にエネルギー消費型の社会から節約型の社会に転換すべきであること、原発に依存しないエネルギーの地産地消型社会へ転換すべきであることを認識しました。再生エネルギーの潜在量が地域によって異なることから、県によって転換を図る必要があるものの、日常生活の大胆な見直しや社会構造の変革も必要であることから、再生エネルギーの転換を図る組織を構築する際には、公募等による市民参加も不可欠です。

ところが、庁内に設けられた「再生可能エネルギー利活用促進検討会」、知事の下に設けられた「栃木発再生可能エネルギービジネスモデル創造特区推進協議会」、有識者からなる「とちぎ再生可能エネルギー有識者会議」のいずれをとっても市民参加を前提とする組織作りが行われていません。さらに「とちぎ再生可能エネルギー有識者会議」については議事が非公開であり、市民が議事を把握することすら困難であるというのが現状です。

そこで、役員会での要望書の承認の下、米田軍平代表及び事務局の浅木一希さんと共に、2011年11月22日、県庁8階の

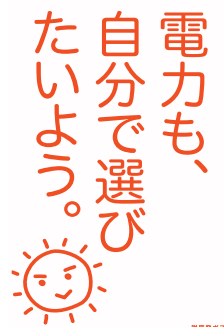
消防防災課に行き、下記「要望の趣旨」の要望書の執行をしました。

1 県が進める再生可能エネルギー推進のための各種施策については、市民に対する情報公開をより充実してください。

2 県が設置する再生可能エネルギー推進のための各種検討会については、専門家だけでなく、複数の公募委員を入れるようにしてください。

3 栃木県において、広範な市民参加の下、迅速かつ着実に可能エネルギーを推進するため、施策及びその実施方法等を検討し、その普及についての啓発活動を担う組織を設置してください。

県知事や副知事の都合がつかず消防防災課に対して執行する形式となってしまいましたが、同課長が県知事及び環境審議部にも回付することです。今後は、当要望書の動向や県の対応を見て、更なるアクションを検討します。



イベント情報

※12月までにぎやかだった集会デモ情報が1月以後めっきり減っている？ 2012年を原発推進勢力巻き返しの年にしないように頑張っていこう！



人・人・人 みんなで行こう！
2月11日 東京代々木公園 B 地区

NO NUKES

さようなら原発集会パレード

☆「全国一斉！さようなら原発1000万人署名アクション」
東日本大震災・福島第一原発事故発生から1年の3月11日。
その一ヶ月前にあたる2月11日前後に全国の主要都市、
原発立地県に呼びかける一斉アクション。

◎2月11日(土)
13:30~ 東京都 代々木公園 B 地区、ケヤキ広場
内容: 集会・パレード(詳細未定)

※この日は全国一斉行動日として、各ブロック、もしくは
原発立地県で集会を開催します。
首都圏会場は代々木公園として開催します。

代表者印が出来ました
これは(有)オカダ印房様 宇都宮市新町
1-6-31の御好意によるものです。
有り難うございます！



会の活動にご協力をお願いします

- ◎ 県内自治体に対する脱原発の請願・陳情などの働きかけ
- ◎ 県の再生エネルギー推進等の協議会への市民参加の申入れ
- ◎ 脱原発1000万人署名活動はまだまだ継続中です。
- ◎ 講演会学習会等の開催

発行 原発いらぬ栃木の会

事務局 〒320-0821 栃木県宇都宮市一条4丁目5番11号
大木一俊法律事務所 TEL028-636-0596/fax028-637-4886

☆ 新規会員を募集しています。